

# みんなあそび

## －友達と仲良く助け合っ－

- 1 学年 第2学年〔前期〕
- 2 主題名 友達のよさ〔2－(3)〕
- 3 ねらい  
クラスのみんながけがをしている自分のことを考えて「みんなあそび」を決めてくれたときの「たけし」の気持ちを考えることを通して、友達と仲良く助け合っていこうとする心情を育てる。
- 4 資料名 「みんなあそび」
- 5 展開

	学習活動と主な発問	児童の反応	指導上の留意点
導入	1 クラスのみんなでした遊びについて振り返る。 ○ 今までクラスのみんなで、どんな遊びをしたでしょう。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ドッジボール</li> <li>・ なわとび</li> <li>・ おにごっこ</li> </ul>	○ クラスのみんなです遊んでいる写真を提示し、資料に対する興味・関心を高める。
展開	2 資料「みんなあそび」を読んで話し合う。 ○ 「たけし」は、「みんなあそび」がおにごっここと知ったとき、どう思ったでしょう。  ○ みんなに見られた時、「たけし」は、どんなことを考えたでしょう。  ◎ えがおで大きくうなずいた「たけし」は、どんな気持ちになったのでしょうか。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ぼくもおにごっこをしたいな。でも、走れないからだめだ。</li> <li>・ 見学だとつまらないな。</li> <li>・ 歩きおにごっこだったらぼくでもできる。</li> <li>・ みんなは走るおにごっこが楽しいだろう。</li> <li>・ 自分からは、「歩きおにごっこにして」と言えない。</li> <li>・ うれしい。みんながぼくのことを考えてくれているんだ。</li> <li>・ はるとくん、みんな、ありがとう。やさしいな。</li> <li>・ 友達っていいな。</li> <li>・ ぼくも、友達のためにいろいろ考えたり、助けてあげたりしよう。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 「みんなあそび」に参加できないと思いがっかりしている「たけし」の気持ちをおさえる。</li> <li>○ 「たけし」の心の中で、いろいろな考えが交錯していることを捉えさせる。</li> <li>○ 友達のよさに気付いた「たけし」の気持ちに共感させる。</li> </ul>
展開	3 友達と仲良く過ごすことのよさについて話し合う。 ○ 友達っていいなと思ったことはありませんか。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 赤白帽子がなくなった時、一緒に探してくれた。</li> <li>・ 転んでけがをした時、「だいじょうぶ」と声をかけてくれた。</li> </ul>	○ 友達のよさや仲良く過ごせた経験を振り返らせることを通して、友達と仲良く助け合おうとする意欲を高める。
終末	4 「友達になるために」の歌を歌う。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 友達っていいな。</li> <li>・ これからも、助け合おう。</li> </ul>	○ 日々の学習・生活場面で互いに助けたり、助けられたりして、支え合っていることに気付かせる。

## 6 授業の概要

### (1) 主題について

よい友達関係を築くには、学習活動や生活のさまざまな場面を通して、互いに認め合い、協力し、信頼感や友情を深めていくことが大切である。この時期の児童は、友達と一緒にいることが多くなり、集団生活を送る中で自分の欲求をある程度押さえ、集団生活を楽しくしようとすることに意識が向くようになる。しかし、幼児期の自己中心性が残り、友達の立場を理解したり、自分と異なる考えを受け入れたりすることが難しい場合もある。

そこで、学級生活を共にしながら仲良く遊んだり、困っている友達のことを心配したりする経験を積み重ねることにより、友達は楽しい時の関係だけでなく、困った時に思いやり、励まし、助け合う存在であることに気付かせ、そのよさをも感じ取らせたい。

### (2) 自作資料活用のポイント

#### ア ねらいとする道徳的価値

本時のねらいとする価値項目は「信頼・友情」なので、友達の温かい心を感じ取った主人公の気持ちに共感させることにより、友達のよさを感じさせ、友達が困っている時には相手の気持ちを推し量り、助けたり、支え合ったりする大切さに気付かせることに重点を置きたい。

#### イ 中心場面の取扱いの工夫

初めは「みんなあそび」に参加できないとあきらめていた主人公が、友達が自分のことを考えてくれたおかげで参加できるようになる。友達のやさしさや思いやりに触れ、喜びで胸がいっぱいになった主人公の気持ちについて考えさせることで、相手の立場を理解し、互いに助け合おうとする気持ちをもたせたい。展開例に示した中心発問以外に、「むねの中がなんだかあたたかくなってくような気がしました。」の部分に焦点を当てて中心発問とすることも考えられる。

#### ウ 他教科等との関連

学級活動で、「いいところみつけ」や「ありがとうカード」等、日頃から友達のよさを見付けたり、「帰りの会」等で発表したりして、友達のよさを認め合う活動を取り入れる。また、学級活動を利用して、みんなで楽しめる遊びを紹介したり、場を設定したりする。コミュニケーションスキルを鍛えるゲーム等を意図的に組み込んでおくと効果的である。

### (3) 指導過程の工夫

#### ア 展開の工夫

中心発問の後で、ワークシートに書くことにより、友達関係のよさに気付かせ、自分も支え合う友達関係をつくっていかうとする主人公の気持ちをじっくり考えさせ、共感させたい。

#### イ 振返りの工夫

展開後段では、児童の体験についての意見が出にくい場合、児童の日記や友達のよさを書いたカード等を提示して気付かせるようにしたい。

#### ウ 終末の工夫

友達をテーマにした歌を音楽の時間や「朝の会」「帰りの会」で継続して歌うことにより、「友情」の道徳的価値の自覚や実践意欲を高めることができる。また、友達と協力し合ったり、支え合ったりしている学習場面や生活場面を撮っておき、それを視聴させるのも、友達のよさを感じ取らせるのに効果的である。

#### 執筆者より

この資料は、職員室で聞いた本校で実際にあったエピソードをもとに作成した。心のアンテナを張り巡らせていると、いろいろなところに自作資料づくりのヒントを見付けることができる。それぞれの休憩時間のエピソードに変更して活用するとよい。

(三津口小学校 枝長 真智子)